

## 広島県教育奨励賞受賞の状況（過去5年間）

### 個人（学校教育）

年度	名 前	所属 職名	功績等
2020 令和2	山田 賀子	福山市立南小学校 教諭	教務主任として「単元の学びの本質は何か」を問うことで「子ども主体の学び」を深める研究を中心となって推進した。特に学びの本質に向かうために、単元の導入を大事にした授業を実践することで、児童が単元で学ぶ内容や疑問点等を交流して明らかにするとともに、その後の学びにおいても児童の主体的に取り組む姿が見られる等の成果を上げた。
	渡邊 博之	福山市立松永中学校 教諭	研究主任及び道徳教育推進教師として、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを国語や道徳などの授業実践、校内研修の企画・運営などにより牽引しており、組織的な学校運営において中心的な役割を果たした。
2019 令和元	信岡 ゆかり	福山市立城南中学校 養護教諭	中学校区で実施するアンケートやデータ分析により、保健室固有の環境を活用した健康相談を実践するとともに、生徒・保護者や地域へ健康教育の大切さを啓発しながら取組を推進し、う歯・歯周病治療勧奨等の歯科保健の取組において成果を上げるとともに、本県の保健指導の充実に貢献した。
	箱田 淳子	福山市立千年中学校 教諭	「学びの変革」パイロット校事業のパイロット教員として、関わり合いを通して思考力・判断力・表現力を育む授業づくりに取り組むとともに、数学と生活を結び付けた自作問題の作成や自らの多様な実践に基づく的確な指導・助言等により、本県の授業改善の推進に大きく貢献した。

2018 平成30	岡田 さつき	福山市立水呑小学校 教諭	「学びの変革」パイロット校事業のパイロット教員として、国語科と総合的な学習の時間を中心とした研究を推進するとともに、中堅教諭等資質向上研修等で自らの実践を発表するなど、「課題発見・解決学習」、「育成する資質・能力」の普及に貢献した。
	菅 隆幸	福山市立城北中学校 教諭	「学びの変革」パイロット校事業のパイロット教員として、全教科・全領域の単元開発・授業改善の実践を進めるとともに、特に数学科の授業を通して生徒に資質・能力を身に付けさせ、その姿を学校内外に積極的に発信するなど、県全体への普及に貢献した。
2017 平成29	川本 忠司	福山市立道上小学校 教諭	学力向上に向け、現任校においてカリキュラムマップ（全体計画）を作成し、授業改善を推進した。また、前任校においては、中学校における課題を踏まえ、中学校区内全小学校の課題について分析し、校区全体の学力向上の取組を進めた。
2016 平成28	占部 亨	福山市立春日小学校 教諭	道徳教育に関する高い専門性を有し、平成27年度に「授業の匠」の認証を受け、他校の校内研修で講師として資料分析や児童が主体的に学ぶ授業の工夫などについて指導・助言するなど、道徳の授業力向上に貢献した。

## 団体（学校教育）

	団体名	功績等
2020 令和2	福山市立千年小学校 校長 岸本 千香子	教科・学年の枠を超えた教育課程を編成し、児童が自分で「決める・選ぶ・考える」場を設定するなど、「子ども主体の学び」づくりを行っている。また、家庭学習の在り方を見直し、児童が自分に合ったやり方を選び、決めることができるよう改善を続けている。これまでの通知表による評価を見直し、自校作成のテストによる評価を行ったり、学習の過程が分かる個人のポートフォリオにまとめたりしている。
	福山市立城東中学校 校長 羽原 靖明	平成 30 年度から、生徒の新たな居場所として、「きらりルーム」を設置し、令和元年度からは、経済産業省の「未来の教室モデル校実証事業」の指定を受け、生徒一人一人の多様な学びを実現する場所となるように実践を行っている。企業が開発した「答えのない問いを協働的に解決する学習プログラム（探究学習プログラム）」を総合的な学習の時間に導入したり、EdTech や I C T 機器の活用を進めたりして、個に応じた学習に積極的に挑戦している。
2019 令和元	福山市立今津小学校 校長 橋本 秀基	これまでの通知表による評価等を見直し、学習の過程と結果が分かる個人のポートフォリオを作成した。また、学期末には、個人のポートフォリオによる児童面談、保護者面談を行っている。総合的な学習の時間では、児童が自ら選択したテーマに基づき、異年齢による縦割りグループを編成して探究活動を行い、異なる視点で課題を設定したり積極的に考えを交流したりしている。
	福山市立鷹取中学校 校長 藤田 由美子	論理的思考を育成するために、ルーブリック評価、思考スキル・思考ツールの活用等を学習過程に位置付けた「鷹取中学校授業スタイル」を作成し、生徒が一人でも学びを深められるようにした。英語科において、教科書の内容を、リスニングや音読、リテリング等の活動ごとに5回以上繰り返して学習する方法を通して、生徒に自分の考えや気持ち、事実などを英語で表現する力の育成を図っている。

<p>2018 平成30</p>	<p>福山市立霞小学校 校長 高橋 裕美子</p>	<p>平成29年度から広島県オリンピック・パラリンピック教育推進事業における広島県コンソーシアム推進校の指定を受け、オリンピック・パラリンピック教育を実施することで、児童のスポーツに対する学びを深め、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進するための授業モデルの開発や教材・教具の工夫に取り組んできた。平成30年8月には、全国小学校体育科教育研究会で「深い学びを実現する体育科の授業づくり」について実践発表をした。</p>
<p>2017 平成29</p>	<p>福山市立城北中学校 校長 岡野 英俊</p>	<p>平成25年度から2年間の福山市連携型小中一貫教育推進モデル中学校区の指定を受け、小中一貫教育による思考力・表現力の育成を図る取組を進めた。平成26年度には、国立教育政策研究所教育課程（理科）研究指定校事業として、科学的に探究する学習活動を柱とした思考力・表現力を高める授業の創造を研究主題として、小学校とのつながりを意識した指導の研究を進めた。平成27年度から「学びの変革」パイロット校事業指定校として全教科・全領域にわたり、単元開発・授業改善の実践を進めてきた。</p>
<p>2016 平成28</p>	<p>福山市立御幸小学校 校長 萩原 由紀子</p>	<p>平成24年度から3年間、「学力向上総合対策事業」の指定を受け、知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成に向け、単元構想や授業展開の工夫などの授業改善に取り組み、指定終了後も中学校区の教育研究を牽引している。また、総合的な学習の時間における探究的・協働的な学習や各教科等との関連を図る日々の授業実践を行い、地域の願いや資源、人材を教育力として活用した単元開発を進めている。</p>